

第 2 部

精神保健福祉士養成課程の 実習・演習担当教員養成講習プログラム

一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会
研究委員会

はじめに

本研究は、厚生労働省の「平成 21 年度障害者保健福祉推進事業」の中の「精神保健福祉士養成カリキュラム改正に伴う実習指導者及び実習担当教員養成研修のプログラム開発事業」の一環で、社団法人日本精神保健福祉士協会より、一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会（以下「精養協」という）が実習担当教員を対象とした調査研究に関して一部委託を受けて実施したものである。その背景には 2007（平成 19）年の「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正による社会福祉士の養成カリキュラムの改訂があり、資格化から 10 余年を経た今日、精神保健福祉士のカリキュラムも見直しに向けた検討が行われている最中である。より質の高い福祉専門職を社会に送り出すうえで、大学における教育の質の向上を目指す必要があり、精神保健福祉士の養成課程を有する大学及び養成施設等における演習及び現場実習の実態を調査するとともに、今後の望ましい演習・現場実習の在り方について明確化することが求められている。

そこで、調査 1 として、精神保健福祉士の養成課程を有する大学及び養成施設等を対象とした「精神保健福祉士養成課程 実習・演習状況調査」を実施した。その結果を踏まえ、調査 2 として、「実習・演習教員養成モデル講習会」を開催し、参加者を対象としたアンケート調査及びグループインタビューの結果から、実習担当教員に必要な研修内容の明確化を行った。

2. 調査の方法及び内容

(1) <調査 1>「精神保健福祉士養成課程 実習・演習状況調査」

2009 年 8 月、日本精神保健福祉士養成校協会会員校 166 校（うち 1 校は賛助会員校）を対象とし、養成課程の実習と演習に関する実態把握のための質問紙調査を実施した（資料 1）。内容としては、実習・演習の時間数、実習施設数、実習・演習を履修した学生数、実習内容、実習・演習を担当している教員数、国家資格の有無、科目を教えている年数、実務経験などである。

(2) <調査 2>実習・演習教員養成モデル講習会

調査 2 としては、調査 1 において把握した実態をもとに、2010 年 2 月 18 日、19 日は演習担当教員、2 月 20 日、21 日は実習担当教員を対象としたモデル講習会を開催した（資料 2）。そこで、受講生に対する講習内容に関するアンケート（資料 3・4）、講師を対象としたアンケート（資料 5）、講習の事前事後のアンケート（資料 6）とフォーカス・グループインタビュー（1 グループ：5 名）を実施（資料 7）し、その結果から、講習の受講要件と講師要件、シラバス、配属実習内容など、望ましい研修プログラム案の提案を行った。

3. 調査結果

<調査1>「精神保健福祉士養成課程 実習・演習状況調査」

調査対象は、2009年8月時点での会員校166校（うち賛助会員校1校）で、136校（150学科）から回答があった。回収率は全体で81.9%であった（表1参照）。

表1 回収率

	全体	専門学校	大学	賛助 会員校
調査票配布学校数(A)	166	32	133	1
回収学校数(B)	136	24	111	1
回収学科数(C)	150	33	116	1
回収率(B/A)	81.9%	75.0%	83.5%	100.0%

(1) 精神保健福祉援助実習における配属実習の時間数

精神保健福祉援助実習のうち、配属実習の実習時間数は、180時間が最も多く62.0%であった（表2参照）。精神保健福祉援助実習の事前指導の時間数に関しては、60時間が最も多く25.3%、事後指導の時間数は30時間が最も多く、38.0%という結果であった（表3・4参照）。学校種別ごとの実習時間の平均は表5・図1のとおりで、従来のカリキュラムを反映した結果となっている。

表2 精神保健福祉援助実習のうち、「配属実習」の標準的な実習時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
90時間	13	8.7	12	35.3	1	0.9
93-170時間	4	2.7	1	2.9	3	2.6
180時間	93	62.0	14	41.2	79	68.1
181-192時間	11	7.3	3	8.8	8	6.9
200-240時間	15	10.0	3	8.8	12	10.3
268-320時間	7	4.7	1	2.9	6	5.2
NA	7	4.7	0	0.0	7	6.0
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	179.3		151.6		188.0	

※回答内容に即して区分

表3 精神保健福祉援助実習のうち、「事前指導」の標準的な時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0 時間	2	1.3	2	5.9	0	0.0
1.5-8 時間	11	7.3	9	26.5	2	1.7
10-18 時間	9	6.0	3	8.8	6	5.2
20-25 時間	6	4.0	2	5.9	4	3.4
30 時間	25	16.7	0	0.0	25	21.6
34-39 時間	6	4.0	2	5.9	4	3.4
40-48 時間	19	12.7	4	11.8	15	12.9
50 時間	6	4.0	2	5.9	4	3.4
60 時間	38	25.3	6	17.6	32	27.6
67-70 時間	5	3.3	0	0.0	5	4.3
80-100 時間	12	8.0	3	8.8	9	7.8
NA	11	7.3	1	2.9	10	8.6
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	43.8		32.6		47.3	

※回答内容に即して区分

表4 精神保健福祉援助実習のうち、「事後指導」の標準的な実習時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0 時間	5	3.3	5	14.7	0	0.0
1-9 時間	16	10.7	10	29.4	6	5.2
10-18 時間	10	6.7	3	8.8	7	6.0
20-25 時間	10	6.7	2	5.9	8	6.9
30 時間	57	38.0	7	20.6	50	43.1
35-40 時間	8	5.3	2	5.9	6	5.2
45 時間	14	9.3	2	5.9	12	10.3
48-50 時間	2	1.3	0	0.0	2	1.7
60 時間	11	7.3	0	0.0	11	9.5
65-112 時間	5	3.3	2	5.9	3	2.6
NA	12	8.0	1	2.9	11	9.5
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	30.8		19.5		34.3	

※回答内容に即して区分

表5 学校種別ごとの実習時間数の平均

学校種別		Q1 配属実習時間数	Q2 事前指導の時間数	Q3 事後指導の時間数
一般養成施設	平均値	188.6	51.4	30.9
通信・短期養成施設	平均値	104.5	5.9	2.4
大学	平均値	188.3	48.0	35.0
大学通信課程	平均値	150.0	27.7	17.7
合計	平均値	179.3	43.8	30.8

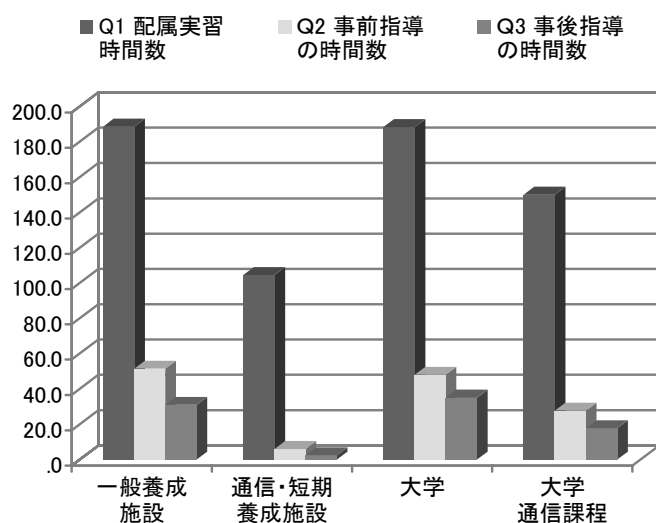


図1 学校種別ごとの実習時間数の平均

(2)一人の学生の実習施設の数

一人の学生が実習を行っている施設数は、大学では2か所が最も多く40.5%、専門学校では1か所のところが多く44.1%という結果であった。また、約2割が学生ごとに個別に判断しており、一定していないという回答であった（表6参照）。

表6 一人の学生の実習施設の数

	全体	専門学校	大学
a. 原則として1か所を実施	33.3	44.1	30.2
b. 原則として2か所を実施	39.3	35.3	40.5
c. 箇所数については個別に判断しており一定していない	22.0	20.6	22.4
d. その他	0.7	0.0	0.9
NA	4.7	0.0	6.0
全体	100.0	100.0	100.0

(3) 配属実習のうち、精神科病院等の「医療機関」における実習について

①実施状況について

医療機関における配属実習に関しては、特に規定がないところが45.3%と最も多く、専門学校では6割を超えている。原則として行っているところが35.3%、16%が必須にしていると回答している（表7・図2参照）。

表7 医療機関での実習の実施状況

	全体	専門学校	大学
a. 必須にしている	16.0	14.7	16.4
b. 原則として行っている	35.3	23.5	38.8
c. 特に規定していない	45.3	61.8	40.5
NA	3.3	0.0	4.3
全体	100.0	100.0	100.0

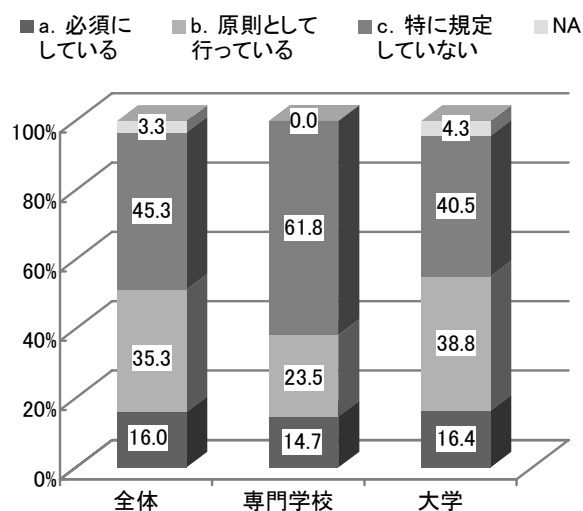


図2 医療機関での実習の実施状況

②精神科病院等の「医療機関」における実習施設の選定について

医療機関での実習を実施している場合、入院病床のあるところに限定しているところが25.3%で、専門学校より大学の方が病床がある病院への志向が高いといえる（表8参照）。

表8 精神科病院等の「医療機関」における実習施設の選定について

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
入院病床を有するところに限定している	38	25.3	4	11.8	34	29.3
入院病床の有無を限定していない	106	70.7	30	88.2	76	65.5
NA	6	4.0	0	0.0	6	5.2
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

③精神科病院等の「医療機関」に依頼した標準的な配属実習時間数(学生1人あたり)

実際に学生がどの程度の時間、医療機関で実習を行っているかということに関しては、90時間、180時間というところに回答が集中していた。養成施設と大学のカリキュラムの違いにより、90時間では専門学校の方が多く、180時間という回答は大学が多かった。医療機関における実習時間の平均は、やはり、大学の方が専門学校よりも約30時間多いという結果である(表9参照)。

表9 精神科病院等の「医療機関」に依頼した標準的な配属実習時間数(学生1人あたり)

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
40-45 時間	3	2.0	2	5.9	1	0.9
85 時間	1	0.7	0	0.0	1	0.9
90 時間	63	42.0	20	58.8	43	37.1
92-96 時間	6	4.0	2	5.9	4	3.4
110-170 時間	9	6.0	2	5.9	7	6.0
180 時間	32	21.3	2	5.9	30	25.9
184-192 時間	8	5.3	2	5.9	6	5.2
200-320 時間	9	6.0	1	2.9	8	6.9
NA	19	12.7	3	8.8	16	13.8
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	129.0		104.3		136.7	

※回答内容に即して区分

④実習を行った学生の総数と精神科医療機関で実習を行った学生数

回答のあった135学科で、平成20年度中に実習を行った学生の総数は3,640人、うち医療機関で実施した学生は2,358人であった。医療機関で実習を行った学生の内訳は、専門学校884人、大学1,474人であり、専門学校では57.3%、大学では70.3%を占めていた。1校あたりの実習人数平均は27.0人(養成施設:45.4人、大学20.8人)、医療機関での実習人数平均は17.5人(養成施設:26.0人、大学14.6人)であった。専門学校よりも大学の方が医療機関での実習の比率は高いが、1学科が送り出している学生数は、専門学校が大学の約1.5倍となっているのが実態である(表10・11・12、図3参照)。

表10 実習を行った学生の総数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1-5 人	18	12.0	5	14.7	13	11.2
6-10 人	22	14.7	4	11.8	18	15.5
11-20 人	47	31.3	4	11.8	43	37.1
21-30 人	18	12.0	6	17.6	12	10.3
31-40 人	8	5.3	2	5.9	6	5.2
41-50 人	3	2.0	1	2.9	2	1.7
51-60 人	6	4.0	4	11.8	2	1.7
61-70 人	3	2.0	1	2.9	2	1.7
71-80 人	0	0.0	0	0.0	0	0.0
81-90 人	1	0.7	1	2.9	0	0.0
91-100 人	1	0.7	1	2.9	0	0.0
101-177 人	8	5.3	5	14.7	3	2.6
NA	15	10.0	0	0.0	15	12.9
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	27.0		45.4		20.8	

※回答内容に即して区分

表11 精神科医療機関で実習を行った学生数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1-5 人	29	19.3	8	23.5	21	18.1
6-10 人	39	26.0	4	11.8	35	30.2
11-20 人	34	22.7	8	23.5	26	22.4
21-30 人	17	11.3	5	14.7	12	10.3
31-40 人	4	2.7	2	5.9	2	1.7
41-50 人	5	3.3	2	5.9	3	2.6
51-60 人	1	0.7	1	2.9	0	0.0
61-70 人	1	0.7	1	2.9	0	0.0
71-80 人	1	0.7	1	2.9	0	0.0
81-90 人	0	0.0	0	0.0	0	0.0
91-100 人	0	0.0	0	0.0	0	0.0
101-177 人	4	2.7	2	5.9	2	1.7
NA	15	10.0	0	0.0	15	12.9
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	17.5		26.0		14.6	

※回答内容に即して区分

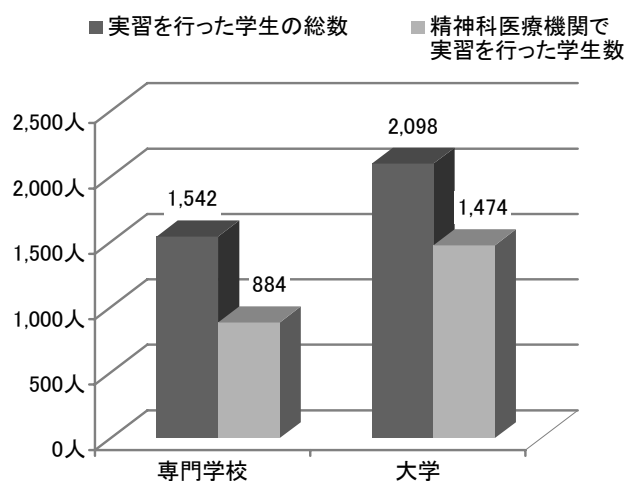


図3 学校種別における実習生の総数と医療機関における実習生の総数の比較

表12 実習を行った学生の総数と医療機関で実習を行った学生数

	全体	専門学校	大学
集計対象数(学科)	135	34	101
実習を行った学生の総数(A)	3,640	1,542	2,098
精神科医療機関で実習を行った学生数(B)	2,358	884	1,474
B/A	64.8%	57.3%	70.3%

実習を行った医療機関の種別ごとの学生数は、精神科病院が全体の80.9%、精神科病院以外の精神科病床を持つ病院は5.8%、病床のある精神科診療所では0.8%、病床のない精神科診療所では13.8%であった(表13参照)。

表13 医療機関種別ごとの学生数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 精神科病院	1,907	80.9	702	79.4	1,205	81.8
b. 精神科病院以外の精神科病床を有する病院	136	5.8	20	2.3	116	7.9
c. 精神科診療所[病床有り]	20	0.8	7	0.8	13	0.9
d. 精神科診療所[病床無し]	326	13.8	181	20.5	145	9.8
e. その他	95	4.0	19	2.1	76	5.2
全体	2,358	100.0	884	100.0	1,474	100.0
延べ学生数	2,484		929		1,555	
集計対象数(学科)	135		34		101	

(4)精神科病院等の実習に関する項目への教員の認識・実習先での実施頻度、学生の理解

精神科病院等の実習内容（外来患者の援助、入院時の援助、急性期の援助、退院時の援助、地域移行の援助、精神専門療法、家族支援、院内多職種との連携、関係機関との連携、在宅患者の援助、デイケアでの集団援助）に関する教員の認識（重要度）について、「非常に重要」、「まあ重要」、「あまり重要ではない」、「まったく重要ではない」の4段階で評価を行った。「地域移行の支援」、「退院時の援助」が最も重要であると認識されていた。「外来患者の援助」、「急性期の援助」、「精神専門療法」の比率は50%を下回っていた（表14・15・16参照）。

表14 教員の認識(実習における重要度)

	全体											
	回答数	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	NA	計	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	NA
a. 外来患者の援助	150	71	59	9	1	10	100.0	47.3	39.3	6.0	0.7	6.7
b. 入院時の援助	150	93	42	3	0	12	100.0	62.0	28.0	2.0	0.0	8.0
c. 急性期の援助	150	65	59	14	0	12	100.0	43.3	39.3	9.3	0.0	8.0
d. 退院時の援助	150	116	23	0	0	11	100.0	77.3	15.3	0.0	0.0	7.3
e. 地域移行の援助	150	122	15	2	0	11	100.0	81.3	10.0	1.3	0.0	7.3
f. 精神専門療法	150	51	76	12	0	11	100.0	34.0	50.7	8.0	0.0	7.3
g. 家族支援	150	84	51	4	0	11	100.0	56.0	34.0	2.7	0.0	7.3
h. 院内多職種との連携	150	97	39	3	0	11	100.0	64.7	26.0	2.0	0.0	7.3
i. 関係機関との連携	150	100	34	5	0	11	100.0	66.7	22.7	3.3	0.0	7.3
j. 在宅患者の援助	150	81	53	5	0	11	100.0	54.0	35.3	3.3	0.0	7.3
k. デイケアでの集団援助	150	77	58	5	0	10	100.0	51.3	38.7	3.3	0.0	6.7

表15 教員の認識(実習における重要度):専門学校

	専門学校											
	回答数	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	NA	計	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	NA
a. 外来患者の援助	34	17	14	2	0	1	100.0	50.0	41.2	5.9	0.0	2.9
b. 入院時の援助	34	19	14	0	0	1	100.0	55.9	41.2	0.0	0.0	2.9
c. 急性期の援助	34	14	14	4	0	2	100.0	41.2	41.2	11.8	0.0	5.9
d. 退院時の援助	34	21	12	0	0	1	100.0	61.8	35.3	0.0	0.0	2.9
e. 地域移行の援助	34	23	10	0	0	1	100.0	67.6	29.4	0.0	0.0	2.9
f. 精神専門療法	34	11	18	4	0	1	100.0	32.4	52.9	11.8	0.0	2.9
g. 家族支援	34	17	15	1	0	1	100.0	50.0	44.1	2.9	0.0	2.9
h. 院内多職種との連携	34	17	14	2	0	1	100.0	50.0	41.2	5.9	0.0	2.9
i. 関係機関との連携	34	18	13	2	0	1	100.0	52.9	38.2	5.9	0.0	2.9
j. 在宅患者の援助	34	17	14	2	0	1	100.0	50.0	41.2	5.9	0.0	2.9
k. デイケアでの集団援助	34	17	14	2	0	1	100.0	50.0	41.2	5.9	0.0	2.9

表16 教員の認識(実習における重要度):大学

	大学											
	回答数	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	NA	計	非常に重要	まあ重要	あまり重要ではない	まったく重要ではない	NA
a. 外来患者の援助	116	54	45	7	1	9	100.0	46.6	38.8	6.0	0.9	7.8
b. 入院時の援助	116	74	28	3	0	11	100.0	63.8	24.1	2.6	0.0	9.5
c. 急性期の援助	116	51	45	10	0	10	100.0	44.0	38.8	8.6	0.0	8.6
d. 退院時の援助	116	95	11	0	0	10	100.0	81.9	9.5	0.0	0.0	8.6
e. 地域移行の援助	116	99	5	2	0	10	100.0	85.3	4.3	1.7	0.0	8.6
f. 精神専門療法	116	40	58	8	0	10	100.0	34.5	50.0	6.9	0.0	8.6
g. 家族支援	116	67	36	3	0	10	100.0	57.8	31.0	2.6	0.0	8.6
h. 院内多職種との連携	116	80	25	1	0	10	100.0	69.0	21.6	0.9	0.0	8.6
i. 関係機関との連携	116	82	21	3	0	10	100.0	70.7	18.1	2.6	0.0	8.6
j. 在宅患者の援助	116	64	39	3	0	10	100.0	55.2	33.6	2.6	0.0	8.6
k. デイケアでの集団援助	116	60	44	3	0	9	100.0	51.7	37.9	2.6	0.0	7.8

教員の認識と実習先における実施頻度を比較してみると、教員の重要だという認識に比較して全体に低いパーセンテージを示している。「よく実施している」「まあ実施している」の総計でみると、教員の認識と同様に、「地域移行の支援」、「退院時の援助」が70%を超える比率を示しており、「院内多職種との連携」、「デイケアでの集団援助」も高率であった。逆に50%を下まわったのは、「外来患者の援助」、「急性期の援助」、「家族支援」であり、「外来患者の援助」、「急性期の援助」はニーズの高さに比較して、実施は低率に留まっていると言える（表17・18・19参照）。

表17 実習先での実施頻度

	全体											
	回答数	よく実施している	まあ実施している	あまり実施していない	ほとんど実施していない	NA	計	よく実施している	まあ実施している	あまり実施していない	ほとんど実施していない	NA
a. 外来患者の援助	150	20	53	51	10	16	100.0	13.3	35.3	34.0	6.7	10.7
b. 入院時の援助	150	27	68	34	6	15	100.0	18.0	45.3	22.7	4.0	10.0
c. 急性期の援助	150	14	45	55	20	16	100.0	9.3	30.0	36.7	13.3	10.7
d. 退院時の援助	150	26	83	18	7	16	100.0	17.3	55.3	12.0	4.7	10.7
e. 地域移行の援助	150	32	78	20	5	15	100.0	21.3	52.0	13.3	3.3	10.0
f. 精神専門療法	150	25	61	45	4	15	100.0	16.7	40.7	30.0	2.7	10.0
g. 家族支援	150	11	58	60	6	15	100.0	7.3	38.7	40.0	4.0	10.0
h. 院内多職種との連携	150	30	89	15	1	15	100.0	20.0	59.3	10.0	0.7	10.0
i. 関係機関との連携	150	27	68	35	3	17	100.0	18.0	45.3	23.3	2.0	11.3
j. 在宅患者の援助	150	28	59	44	2	17	100.0	18.7	39.3	29.3	1.3	11.3
k. デイケアでの集団援助	150	68	58	8	0	16	100.0	45.3	38.7	5.3	0.0	10.7

表18 実習先での実施頻度:専門学校

	専門学校											
	回答数	よく実施している	まあ実施している	あまり実施していない	ほとんど実施していない	NA	計	よく実施している	まあ実施している	あまり実施していない	ほとんど実施していない	NA
a. 外来患者の援助	34	3	12	16	2	1	100.0	8.8	35.3	47.1	5.9	2.9
b. 入院時の援助	34	4	18	10	1	1	100.0	11.8	52.9	29.4	2.9	2.9
c. 急性期の援助	34	2	11	14	6	1	100.0	5.9	32.4	41.2	17.6	2.9
d. 退院時の援助	34	4	21	6	2	1	100.0	11.8	61.8	17.6	5.9	2.9
e. 地域移行の援助	34	8	17	6	2	1	100.0	23.5	50.0	17.6	5.9	2.9
f. 精神専門療法	34	5	20	8	0	1	100.0	14.7	58.8	23.5	0.0	2.9
g. 家族支援	34	1	16	16	0	1	100.0	2.9	47.1	47.1	0.0	2.9
h. 院内多職種との連携	34	3	25	5	0	1	100.0	8.8	73.5	14.7	0.0	2.9
i. 関係機関との連携	34	4	19	9	1	1	100.0	11.8	55.9	26.5	2.9	2.9
j. 在宅患者の援助	34	4	16	13	0	1	100.0	11.8	47.1	38.2	0.0	2.9
k. デイケアでの集団援助	34	22	9	2	0	1	100.0	64.7	26.5	5.9	0.0	2.9

表19 実習先での実施頻度:大学

	大学											
	回答数	よく実施している	まあ実施している	あまり実施していない	ほとんど実施していない	NA	計	よく実施している	まあ実施している	あまり実施していない	ほとんど実施していない	NA
a. 外来患者の援助	116	17	41	35	8	15	100.0	14.7	35.3	30.2	6.9	12.9
b. 入院時の援助	116	23	50	24	5	14	100.0	19.8	43.1	20.7	4.3	12.1
c. 急性期の援助	116	12	34	41	14	15	100.0	10.3	29.3	35.3	12.1	12.9
d. 退院時の援助	116	22	62	12	5	15	100.0	19.0	53.4	10.3	4.3	12.9
e. 地域移行の援助	116	24	61	14	3	14	100.0	20.7	52.6	12.1	2.6	12.1
f. 精神専門療法	116	20	41	37	4	14	100.0	17.2	35.3	31.9	3.4	12.1
g. 家族支援	116	10	42	44	6	14	100.0	8.6	36.2	37.9	5.2	12.1
h. 院内多職種との連携	116	27	64	10	1	14	100.0	23.3	55.2	8.6	0.9	12.1
i. 関係機関との連携	116	23	49	26	2	16	100.0	19.8	42.2	22.4	1.7	13.8
j. 在宅患者の援助	116	24	43	31	2	16	100.0	20.7	37.1	26.7	1.7	13.8
k. デイケアでの集団援助	116	46	49	6	0	15	100.0	39.7	42.2	5.2	0.0	12.9

学生の理解に関しては、「十分深まった」「概ね深まった」の総計で、70%を超えたのは、「院内他職種との連携」「デイケアでの集団援助」の2項目であり、50%を切った項目は、「外来患者の援助」、「急性期の援助」、「精神専門療法」、「家族支援」であり、「精神専門療法」以外は、実施頻度が低いと評価された項目であった（表20・21・22参照）。

表20 学生の理解

	全体											
	回答数	十分深 まった	概ね深 まった	あまり 深まらな かった	全く 深まらな かった	NA	計	十分深 まった	概ね深 まった	あまり 深まらな かった	全く 深まらな かった	NA
a. 外来患者の援助	150	10	61	54	7	18	100.0	6.7	40.7	36.0	4.7	12.0
b. 入院時の援助	150	16	76	35	5	18	100.0	10.7	50.7	23.3	3.3	12.0
c. 急性期の援助	150	7	48	66	12	17	100.0	4.7	32.0	44.0	8.0	11.3
d. 退院時の援助	150	21	79	28	4	18	100.0	14.0	52.7	18.7	2.7	12.0
e. 地域移行の援助	150	26	73	32	2	17	100.0	17.3	48.7	21.3	1.3	11.3
f. 精神専門療法	150	15	58	55	4	18	100.0	10.0	38.7	36.7	2.7	12.0
g. 家族支援	150	10	55	59	8	18	100.0	6.7	36.7	39.3	5.3	12.0
h. 院内多職種との連携	150	23	84	25	0	18	100.0	15.3	56.0	16.7	0.0	12.0
i. 関係機関との連携	150	19	73	37	2	19	100.0	12.7	48.7	24.7	1.3	12.7
j. 在宅患者の援助	150	16	72	43	1	18	100.0	10.7	48.0	28.7	0.7	12.0
k. デイケアでの集団援助	150	32	87	11	1	19	100.0	21.3	58.0	7.3	0.7	12.7

表21 学生の理解: 専門学校

	専門学校											
	回答数	十分深 まった	概ね深 まった	あまり 深まらな かった	全く 深まらな かった	NA	計	十分深 まった	概ね深 まった	あまり 深まらな かった	全く 深まらな かった	NA
a. 外来患者の援助	34	0	15	16	1	2	100.0	0.0	44.1	47.1	2.9	5.9
b. 入院時の援助	34	2	19	10	1	2	100.0	5.9	55.9	29.4	2.9	5.9
c. 急性期の援助	34	1	11	15	5	2	100.0	2.9	32.4	44.1	14.7	5.9
d. 退院時の援助	34	2	16	12	2	2	100.0	5.9	47.1	35.3	5.9	5.9
e. 地域移行の援助	34	5	18	7	2	2	100.0	14.7	52.9	20.6	5.9	5.9
f. 精神専門療法	34	2	22	8	0	2	100.0	5.9	64.7	23.5	0.0	5.9
g. 家族支援	34	0	17	15	0	2	100.0	0.0	50.0	44.1	0.0	5.9
h. 院内多職種との連携	34	2	26	4	0	2	100.0	5.9	76.5	11.8	0.0	5.9
i. 関係機関との連携	34	2	22	8	0	2	100.0	5.9	64.7	23.5	0.0	5.9
j. 在宅患者の援助	34	1	22	9	0	2	100.0	2.9	64.7	26.5	0.0	5.9
k. デイケアでの集団援助	34	7	21	4	0	2	100.0	20.6	61.8	11.8	0.0	5.9

表22 学生の理解: 大学

	大学											
	回答数	十分深 まった	概ね深 まった	あまり 深まらな かった	全く 深まらな かった	NA	計	十分深 まった	概ね深 まった	あまり 深まらな かった	全く 深まらな かった	NA
a. 外来患者の援助	116	10	46	38	6	16	100.0	8.6	39.7	32.8	5.2	13.8
b. 入院時の援助	116	14	57	25	4	16	100.0	12.1	49.1	21.6	3.4	13.8
c. 急性期の援助	116	6	37	51	7	15	100.0	5.2	31.9	44.0	6.0	12.9
d. 退院時の援助	116	19	63	16	2	16	100.0	16.4	54.3	13.8	1.7	13.8
e. 地域移行の援助	116	21	55	25	0	15	100.0	18.1	47.4	21.6	0.0	12.9
f. 精神専門療法	116	13	36	47	4	16	100.0	11.2	31.0	40.5	3.4	13.8
g. 家族支援	116	10	38	44	8	16	100.0	8.6	32.8	37.9	6.9	13.8
h. 院内多職種との連携	116	21	58	21	0	16	100.0	18.1	50.0	18.1	0.0	13.8
i. 関係機関との連携	116	17	51	29	2	17	100.0	14.7	44.0	25.0	1.7	14.7
j. 在宅患者の援助	116	15	50	34	1	16	100.0	12.9	43.1	29.3	0.9	13.8
k. デイケアでの集団援助	116	25	66	7	1	17	100.0	21.6	56.9	6.0	0.9	14.7

今回の設問は医療領域に関する「教員の重要であるという認識」と、「実習先での実施頻度」及び「学生の理解」を問うたものであったが、全体の傾向としてその間には大きな隔たりがあり、一致させていくための方策の検討は今後の実習教育の課題になると考えられる。

(5) 配属実習のうち、社会復帰施設あるいは、障害者自立支援法における福祉サービス事業所（以下、地域の福祉施設とする）における実習について

①実施状況について

福祉サービス事業所における実習に関しては、「必須にしている」という回答が医療機関よりも5.3ポイント少ない結果になっている。その分、「特に規定していない」のパーセンテージが逆転して高くなっている（表23・図4参照）。

表23 地域の福祉施設での実習の実施状況

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 必須にしている	16	10.7	4	11.8	12	10.3
b. 原則として行っている	48	32.0	7	20.6	41	35.3
c. 特に規定していない	80	53.3	23	67.6	57	49.1
NA	6	4.0	0	0.0	6	5.2
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

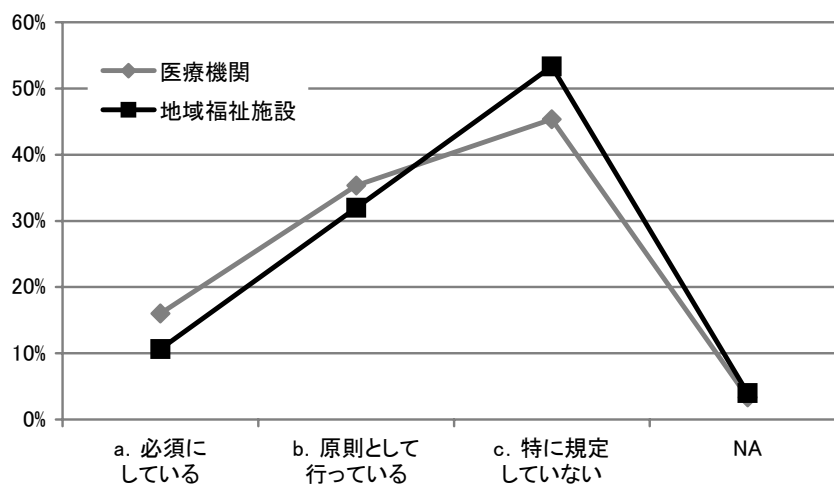


図4 実習実施状況に関する医療機関と地域の福祉施設の比較

②地域の福祉施設に依頼した標準的な配属実習時間数(学生1人あたり)

地域の機関での実習時間は表24の通りで、医療施設での実習時間が専門学校で104.3時間、大学で136.7時間であることと比較して、大学においては、医療機関での実習時間の方が多い傾向にあるが、専門学校ではほとんど差がないのが現状である。

表24 地域の福祉施設に依頼した標準的な配属実習時間数(学生1人あたり)

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0時間	4	2.7	0	0.0	4	3.4
3-20時間	2	1.3	0	0.0	2	1.7
45-85時間	5	3.3	2	5.9	3	2.6
90時間	68	45.3	19	55.9	49	42.2
92-120時間	11	7.3	3	8.8	8	6.9
135-170時間	7	4.7	2	5.9	5	4.3
180時間	22	14.7	2	5.9	20	17.2
184-192時間	8	5.3	1	2.9	7	6.0
200-320時間	6	4.0	1	2.9	5	4.3
NA	17	11.3	4	11.8	13	11.2
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	117.3		105.1		120.9	

※回答内容に即して区分

(6) 今回のカリキュラム改訂に際して考える配属実習時間数(学生1人あたり)

今後のカリキュラム改訂を念頭において、理想と考える実習時間数を訊ねてみたところ、各学校種別の平均で、現状よりも30時間から50時間程度上乘せした数字の回答があった(表25参照)。しかし、現実として、改訂にあたって望む時間数を訊ねてみると、大学は平均で現状より10時間現状を上回った時間数の回答があった(表26参照)が、その他の通信制大学、専門学校では、現状維持を望む意見が大勢を占めていた(表27・図5参照)。

①理想と考える配属実習時間数

表25 理想と考える配属実習時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
16-40 時間	2	1.3	0	0.0	2	1.7
90 時間	16	10.7	7	20.6	9	7.8
180 時間	46	30.7	13	38.2	33	28.4
190-192 時間	2	1.3	0	0.0	2	1.7
200 時間	10	6.7	5	14.7	5	4.3
210-230 時間	5	3.3	2	5.9	3	2.6
240 時間	9	6.0	0	0.0	9	7.8
270 時間	16	10.7	1	2.9	15	12.9
280-320 時間	8	5.3	1	2.9	7	6.0
360 時間	9	6.0	1	2.9	8	6.9
400-600 時間	7	4.7	1	2.9	6	5.2
NA	20	13.3	3	8.8	17	14.7
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	223.2		191.7		232.7	

※回答内容に即して区分

②現実的に希望する配属実習時間数

表26 現実的に希望する配属実習時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
10-40 時間	3	2.0	1	2.9	2	1.7
90 時間	20	13.3	10	29.4	10	8.6
120 時間	2	1.3	1	2.9	1	0.9
180 時間	60	40.0	11	32.4	49	42.2
184-192 時間	3	2.0	0	0.0	3	2.6
200 時間	11	7.3	5	14.7	6	5.2
210-225 時間	5	3.3	1	2.9	4	3.4
240 時間	10	6.7	1	2.9	9	7.8
250-280 時間	13	8.7	1	2.9	12	10.3
300-360 時間	7	4.7	0	0.0	7	6.0
NA	16	10.7	3	8.8	13	11.2
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	186.9		153.0		196.9	

※回答内容に即して区分

③現状の実習時間と理想、現実に希望する実習時間の比較

表27 現状と理想、現実として希望する実習の時間数

学校種別		現状の実習時間数	理想と考える実習時間数	希望する実習時間数
一般養成施設	平均値	184.5	223.8	184.9
	度数	20	17	19
通信・短期養成施設	平均値	104.5	152.9	102.5
	度数	14	14	12
大学	平均値	189.1	234.3	198.3
	度数	106	99	101
大学通信課程	平均値	150.0	180.0	150.0
	度数	3	3	3
合計	平均値	179.3	223.2	186.9
	度数	143	133	135

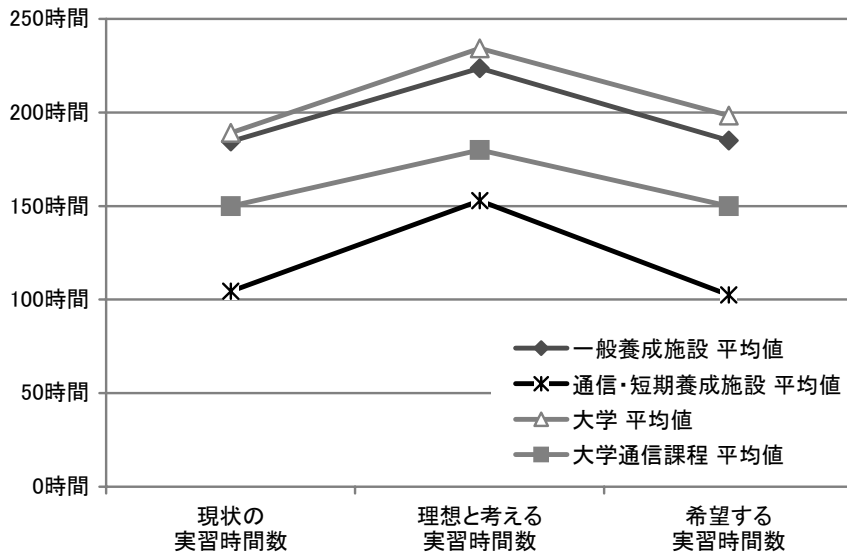


図5 現状と理想、現実として希望する実習時間数の学校種別平均の比較

(7) 精神保健福祉援助実習担当教員一人あたりの履修者数

精神保健福祉援助実習を担当している教員一人あたりの履修者数は、表 28 の通りで、大学は 5～10 名を担当しているという回答が最も多く、4 割を占めている。それに比較して、専門学校では、21 名以上を担当しているという回答が 32.4%を占めており、5～10 名と回答した群をわずかではあるが上回る結果となっている。

表28 精神保健福祉援助実習担当教員一人あたりの履修者数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 5 名未満	24	16.0	3	8.8	21	18.1
b. 5～10 名	57	38.0	10	29.4	47	40.5
c. 11～15 名	25	16.7	3	8.8	22	19.0
d. 16～20 名	18	12.0	4	11.8	14	12.1
e. 21 名以上	16	10.7	11	32.4	5	4.3
NA	10	6.7	3	8.8	7	6.0
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

(8) 演習を実施している時間

演習に関しては、現状から約 20 時間前後の幅を理想の演習時間とする回答が多かった（表 29・30 参照）。また、今回のカリキュラム改訂に際しての希望としては、学校の種別にかかわらず、現状よりも 15 時間程度の時間増を望むという結果になっている（表 31 参照）。

①現状の精神保健福祉援助演習の時間数

表29 現状の精神保健福祉援助演習の時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
6-18 時間	13	8.7	11	32.4	2	1.7
30 時間	8	5.3	1	2.9	7	6.0
42-45 時間	8	5.3	2	5.9	6	5.2
60 時間	96	64.0	17	50.0	79	68.1
70-96 時間	6	4.0	2	5.9	4	3.4
120 時間	8	5.3	0	0.0	8	6.9
164-270 時間	3	2.0	1	2.9	2	1.7
NA	8	5.3	0	0.0	8	6.9
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	60.2		45.6		64.8	

※回答内容に即して区分

②理想と考える演習の時間数

表30 理想と考える演習の時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
6-24 時間	11	7.3	9	26.5	2	1.7
30-32 時間	4	2.7	1	2.9	3	2.6
45-52.5 時間	5	3.3	1	2.9	4	3.4
60 時間	46	30.7	8	23.5	38	32.8
70 時間	1	0.7	1	2.9	0	0.0
90 時間	28	18.7	7	20.6	21	18.1
100 時間	1	0.7	0	0.0	1	0.9
120 時間	26	17.3	2	5.9	24	20.7
135-270 時間	14	9.3	3	8.8	11	9.5
NA	14	9.3	2	5.9	12	10.3
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	84.8		65.2		90.9	

※回答内容に即して区分

③今回のカリキュラム改訂に際して希望する演習の時間数

表31 今回のカリキュラム改訂に際して希望する演習の時間数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0 時間	1	0.7	0	0.0	1	0.9
6-18 時間	11	7.3	9	26.5	2	1.7
30 時間	5	3.3	1	2.9	4	3.4
42-45 時間	4	2.7	1	2.9	3	2.6
60 時間	48	32.0	9	26.5	39	33.6
67.5-70 時間	2	1.3	1	2.9	1	0.9
90 時間	31	20.7	5	14.7	26	22.4
100 時間	2	1.3	0	0.0	2	1.7
120 時間	16	10.7	2	5.9	14	12.1
135-270 時間	10	6.7	3	8.8	7	6.0
NA	20	13.3	3	8.8	17	14.7
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	77.0		62.4		81.7	

※回答内容に即して区分

④精神保健福祉援助演習の履修者数

演習の履修者数に関しては、大学では平均 22.6 名、専門学校では 55.4 名となっており、2 倍以上の格差がある（表 32 参照）。教員一人あたりの履修者数でみると、大学では 5～15 名の範囲に 50%以上が含まれているが、専門学校は、16～20 名という回答が約半数を占めている（表 33 参照）。教員一人あたりの履修者数の上限に関しては、設けているところと設けていないところが約半数ずつであり、専門学校の方が設けている割合が高く、約 7 割の学校で上限があるという回答を得た（表 34 参照）。また、その上限の人数に関しては、上限を設けていると回答した機関の 72.4%が 20 名と回答している（表 35 参照）。

表32 精神保健福祉援助演習の履修者数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1～5 名	14	9.3	6	17.6	8	6.9
6～10 名	20	13.3	3	8.8	17	14.7
11～15 名	25	16.7	1	2.9	24	20.7
16～20 名	20	13.3	4	11.8	16	13.8
21～25 名	18	12.0	2	5.9	16	13.8
26～30 名	11	7.3	2	5.9	9	7.8
31～35 名	4	2.7	0	0.0	4	3.4
36～40 名	8	5.3	2	5.9	6	5.2
50～235 名	20	13.3	13	38.2	7	6.0
NA	10	6.7	1	2.9	9	7.8
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0
AVE	30.5		55.4		22.6	

※回答内容に即して区分

⑤精神保健福祉援助演習担当教員一人あたりの履修者数

表33 精神保健福祉援助演習担当教員一人あたりの履修者数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 5 名未満	17	11.3	4	11.8	13	11.2
b. 5～10 名	42	28.0	8	23.5	34	29.3
c. 11～15 名	34	22.7	5	14.7	29	25.0
d. 16～20 名	38	25.3	16	47.1	22	19.0
e. 21 名以上	13	8.7	1	2.9	12	10.3
NA	6	4.0	0	0.0	6	5.2
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

⑥精神保健福祉援助演習の担当教員一人あたりの履修者数の上限

表34 精神保健福祉援助演習の担当教員一人あたりの履修者数の上限の有無

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 有	76	50.7	24	70.6	52	44.8
b. 無	64	42.7	9	26.5	55	47.4
c. その他	4	2.7	0	0.0	4	3.4
NA	6	4.0	1	2.9	5	4.3
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

表35 「有」の場合の上限数

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
7名	2	2.6	0	0.0	2	3.8
10名	6	7.9	0	0.0	6	11.5
11～15名	7	9.2	1	4.2	6	11.5
20名	55	72.4	22	91.7	33	63.5
21名	1	1.3	1	4.2	0	0.0
30名	1	1.3	0	0.0	1	1.9
45～50名	3	3.9	0	0.0	3	5.8
NA	1	1.3	0	0.0	1	1.9
全体	76	100.0	24	100.0	52	100.0
AVE	19.5		19.8		19.5	

※回答内容に即して区分

(9) 配属実習以外の学外授業等について実施している内容と科目名

配属実習以外に学外授業等をどの程度実施しているかについてであるが、「施設見学」、「プレ実習」、「ボランティア体験」、「外部講師（SW）の招へい」、「外部講師（当事者）の招へい」という5項目に関して問うてみた結果、全体として最も多く実施されていたのは、外部講師（SW）の招へいであり46.7%が実施しているという結果であった。次いで、45.3%が施設見学を実施していた（表36参照）。学校種別でみると大学でより多く実施されている傾向にある。そうした学外授業等がどの科目の中で実施されているかということに関しては、施設見学は圧倒的に実習の授業で、講師を招いた授業は実習あるいは、他の講義科目という回答が多かったが、演習の授業でも実施されていた（表37・38参照）。

表36 配属実習以外の学外授業等

	全体					
	精神保健福祉 援助実習		精神保健福祉 援助演習		その他講義科目	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
施設見学	68	45.3	21	14.0	38	25.3
プレ実習	30	20.0	9	6.0	15	10.0
ボランティア体験	34	22.7	19	12.7	55	36.7
外部講師(ソーシャルワーカー)の招へい	70	46.7	36	24.0	68	45.3
外部講師(当事者)の招へい	47	31.3	34	22.7	60	40.0
全体	150	100.0	150	100.0	150	100.0

表37 配属実習以外の学外授業等: 専門学校

	専門学校					
	精神保健福祉 援助実習		精神保健福祉 援助演習		その他講義科目	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
施設見学	13	38.2	0	0.0	3	8.8
プレ実習	5	14.7	0	0.0	1	2.9
ボランティア体験	4	11.8	1	2.9	6	17.6
外部講師(ソーシャルワーカー)の招へい	8	23.5	5	14.7	11	32.4
外部講師(当事者)の招へい	9	26.5	6	17.6	6	17.6
全体	34	100.0	34	100.0	34	100.0

表38 配属実習以外の学外授業等: 大学

	大学					
	精神保健福祉 援助実習		精神保健福祉 援助演習		その他講義科目	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
施設見学	55	47.4	21	18.1	35	30.2
プレ実習	25	21.6	9	7.8	14	12.1
ボランティア体験	30	25.9	18	15.5	49	42.2
外部講師(ソーシャルワーカー)の招へい	62	53.4	31	26.7	57	49.1
外部講師(当事者)の招へい	38	32.8	28	24.1	54	46.6
全体	116	100.0	116	100.0	116	100.0

(10) 社会福祉士制度と同様に実習・演習科目教員に条件が設けられるという前提における、
実習・演習担当教員講習会の受講が必要になる教員数とその勤務形態別内訳

現状において、回答した機関で実習・演習の授業を担当している教員の数と勤務形態は表 39 の通りである。実習と演習に社会福祉士と同様のしほりが設けられたと仮定した際に、現状でどの程度教員講習に関するニーズがあるのかということに関しては、実習に関しては、大学で 86 名、専門学校で 100 名、総計 186 名という結果であった。また、演習に関しては、大学で 69 名、専門学校で 62 名、計 131 名であった（表 40 参照）。

実習の授業を担当している年数に関しては、5 年未満の人が全体で 53.2%を占めている（表 41 参照）。同様に演習に関しても、46.8%を占めているという結果であった（表 42 参照）。国家資格の取得状況としては、全体の 79.5%が精神保健福祉士資格を取得しており、専門学校に関しては、94.3%が取得しているという結果であった（表 43 参照）。さらに、国家資格取得後の精神保健福祉士としての現場経験に関しても、5 年以上の経験を持つ人が現時点で 74.0%であり、大学では 6 割を、専門学校では 8 割を超えていた（表 44 参照）。

表39 現在、実習・演習を担当する教員

(教員個票)

	全体		専門学校		大学	
	人数	%	人数	%	人数	%
専任	321	54.3	74	28.4	247	74.8
非常勤	269	45.5	187	71.6	82	24.8
NA	1	0.2	0	0.0	1	0.3
全体	591	100.0	261	100.0	330	100.0

(教員個票)

	全体		専門学校		大学	
	人数	%	人数	%	人数	%
実習	461	78.0	178	68.2	283	85.8
演習	417	70.6	189	72.4	228	69.1
NA	5	0.8	2	0.8	3	0.9
全体	591	MA	261	MA	330	MA

表40 現任教員の中で、実習・演習担当教員講習会の受講が必要になる教員数と勤務形態

(人数)

	全体			専門学校			大学		
	合計	専任	非常勤	合計	専任	非常勤	合計	専任	非常勤
精神保健福祉援助実習担当教員	186	105	81	100	32	68	86	73	13
精神保健福祉援助演習担当教員	131	86	45	62	31	31	69	55	14
合計	317	191	126	162	63	99	155	128	27
集計対象数(学科)	149			34			115		

(%)

	全体			専門学校			大学		
	合計	専任	非常勤	合計	専任	非常勤	合計	専任	非常勤
精神保健福祉援助実習担当教員	100.0	56.5	43.5	100.0	32.0	68.0	100.0	84.9	15.1
精神保健福祉援助演習担当教員	100.0	65.6	34.4	100.0	50.0	50.0	100.0	79.7	20.3
合計	100.0	60.3	39.7	100.0	38.9	61.1	100.0	82.6	17.4
集計対象数(学科)	149			34			115		

表41 実習・担当年数

(教員個票)

	全体		専門学校		大学	
	人数	%	人数	%	人数	%
1年	57	12.4	24	13.5	33	11.7
2年	55	11.9	25	14.0	30	10.6
3年	81	17.6	28	15.7	53	18.7
4年	52	11.3	25	14.0	27	9.5
5年	49	10.6	9	5.1	40	14.1
6年	33	7.2	6	3.4	27	9.5
7年	40	8.7	27	15.2	13	4.6
8年	36	7.8	22	12.4	14	4.9
9年	15	3.3	3	1.7	12	4.2
10年	30	6.5	6	3.4	24	8.5
11年以上	8	1.7	0	0.0	8	2.8
NA	5	1.1	3	1.7	2	0.7
全体	461	100.0	178	100.0	283	100.0

表42 演習・担当年数

(教員個票)

	全体		専門学校		大学	
	人数	%	人数	%	人数	%
1年	42	10.1	13	6.9	29	12.7
2年	54	12.9	27	14.3	27	11.8
3年	65	15.6	27	14.3	38	16.7
4年	34	8.2	17	9.0	17	7.5
5年	85	20.4	52	27.5	33	14.5
6年	40	9.6	11	5.8	29	12.7
7年	22	5.3	14	7.4	8	3.5
8年	27	6.5	17	9.0	10	4.4
9年	12	2.9	3	1.6	9	3.9
10年	25	6.0	4	2.1	21	9.2
11年以上	8	1.9	1	0.5	7	3.1
NA	3	0.7	3	1.6	0	0.0
全体	417	100.0	189	100.0	228	100.0

表43 精神保健福祉士国家資格の有無

(教員個票)

	全体		専門学校		大学	
	人数	%	人数	%	人数	%
有	470	79.5	246	94.3	224	67.9
無	118	20.0	13	5.0	105	31.8
NA	3	0.5	2	0.8	1	0.3
全体	591	100.0	261	100.0	330	100.0

表44 精神保健福祉士資格取得後の実務経験

(教員個票)

	全体		専門学校		大学	
	人数	%	人数	%	人数	%
無	30	6.4	5	2.0	25	11.2
5年未満	86	18.3	38	15.4	48	21.4
5年以上	348	74.0	203	82.5	145	64.7
NA	6	1.3	0	0.0	6	2.7
全体	470	100.0	246	100.0	224	100.0

(11)機関における社会福祉士養成の有無

社会福祉士の養成に関しては、全体として92%が実施しており、2007年度に精養協が実施した同様の調査結果より18ポイント増加している(表45・46参照)。

表45 機関における社会福祉士養成の有無

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 行っている	138	92.0	29	85.3	109	94.0
b. 行っていない	12	8.0	5	14.7	7	6.0
NA	0	0.0	0	0.0	0	0.0
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

表46 社会福祉士養成の有無に関する前回調査(2007)との比較

	2009年調査		2007年調査	
	回答数	%	回答数	%
a. 行っている	138	92.0	91	74.0
b. 行っていない	12	8.0	30	24.4
NA	0	0.0	2	1.6
全体	150	100.0	123	100.0

(12)精神保健福祉士と社会福祉士両方の資格取得が可能か否か

精神保健福祉士国家試験受験資格と社会福祉士国家試験受験資格の双方の資格取得が可能かどうかという設問に関しては、両方取得できるという回答が 48%、社会福祉士受験資格が前提で、精神保健福祉士受験資格が取得できるという回答が 24%であり、総計 72%が両方の受験資格取得が可能という結果になっている。特に大学に関しては、82.7%が双方の受験資格取得が可能という結果になっている（表 47 参照）。前回の 2007 年度の調査結果との比較において、並行して取得できるという回答が約 35 ポイントもアップしている（表 48 参照）。

表47 社会福祉士受験資格と精神保健福祉士受験資格の両方を取得できるか否か

	全体		専門学校		大学	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
a. 両方取得できる	72	48.0	9	26.5	63	54.3
b. 社会福祉士指定科目履修が精神保健福祉士指定科目履修の前提	36	24.0	3	8.8	33	28.4
c. 精神保健福祉士しか取得できない	22	14.7	11	32.4	11	9.5
d. その他	8	5.3	5	14.7	3	2.6
NA	12	8.0	6	17.6	6	5.2
全体	150	100.0	34	100.0	116	100.0

表48 社会福祉士受験資格を並行して取得できるか否かに関して前回調査(2007)との比較

	2009年調査		2007年調査	
	回答数	%	回答数	%
a. 両方取得できる	108	72.0	44	35.8
b. 精神保健福祉士しか取得できない	22	14.7	79	64.2
その他	8	5.3	0	0.0
NA	12	8.0	0	0.0
全体	150	100.0	123	100.0